

屋外でのねこのエサやりは、さまざまな問題が発生しやすく、ねこに関する苦情の中でも大きな割合を占めています。一方、地域の人々の理解と協力を得てエサやりが行われている場合もあります。

エサやりでトラブルが起きる場合と起きない場合の違いはどこにあるのでしょうか？

ねこへの

屋外でのエサやりを考える

みなさんも一緒に考えてみませんか？

あなたは

屋外でねこにエサを与えることについて
どう思いますか？



「ねこが大好き」と「ねこが大嫌い」という人の割合は20%ずつで、60%の人が「どちらでもない」のだそうです。実際、動物指導センターに「ねこの糞や尿で困っている」と相談される人の多くが「ねこが嫌いではないけれど、迷惑をかけられることが困る」と言います。

「かわいそうなねこを助けたい」という気持ちを持つのはとても大切なことです。でも、ただエサを与え続けることで不幸なねこが増えてしまったり、ご近所に迷惑をかけて「ねこが嫌い」という人を増やすことになってしまえば、ねこにとっても人間にとっても不幸なことだと思います。

ねこを優しく見守ってくれる人を増やし、ねこが幸せに暮らすことのできる方法を考えてみませんか？



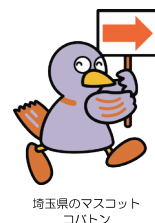
彩の国

埼玉県動物指導センター

〒360-0105 埼玉県熊谷市板井123 TEL048(536)2465 E-mail:k362465@pref.saitama.lg.jp

埼玉県動物指導センター 南支所

〒338-0813 さいたま市桜区在家473 TEL048(855)0484 E-mail:k36246a@pref.saitama.lg.jp



埼玉県のマスコット
コバトン

エサを与えることによる影響

屋外でのエサやり

全体への影響

- ・エサを得られる場所にねこが集中
- ・自然繁殖によるねこの増加

物への影響

- ・畑や花壇を掘り返すなどの被害
- ・樹木や植え込みに尿をかけることによる枯れ死
- ・車に登ることによる傷
- ・爪研ぎで物を傷付けるなど

人への影響

- ・糞尿による汚れ・臭気
- ・衛生害虫（ハエなど）の発生
- ・発情したねこの鳴き声
- ・ねこ同士のケンカなどの騒音
- ・毛によるアレルギー

不幸なねこの増加

- ・交通事故
- ・自然にまかせた出産による母体への過負担
- ・生まれた子ねこの死（餓死・カラスなどに襲われる・交通事故・病気など）
- ・与えられたエサを頼ることによる、ねこの自立した生活の消滅
- ・ねこ同士による感染症の感染機会の増加

トラブルを減らすために

問題解決のためのヒント（一例）です。

答えは一つではありません。

関係する人が皆で考え、お互いに理解できる対策を目指すことが重要です。

不妊手術

- ・ねこが増えないためのポイント。将来的にねこの数が自然に減ることが最大の目標

飼いねこ化

- ・室内飼い、大型ケージ、ねこ舎などでの飼育方法の検討。新しい飼い主さがし。

エサやりの配慮

- ・決められた時間に多すぎない量を与える（過量のエサは繁殖につながる）。
- ・食べ残したエサは責任を持ってすぐに片付ける（放置しない）
- ・エサを与えることでねこの自立性が失われないように、また、集まりすぎないようにする。（エサだけに依存するねこにしない）

近隣への配慮

- ・「将来、ねこの数が減ることを目指す」など、具体的な目標と方法を決めたらうえて、長期的な視野で理解してもらうように努める。
- ・「ねこが集まる原因は、エサを与える自分にある」ということを忘れない。「いいことをしているのだから」という主張は自己中心的な理由であって、他人に対しては押しつけになる。「ご近所に迷惑がかかっていないか？」という配慮があって、はじめて理解を得ることができる。（誰もがねこへのエサやりを望んでいるわけではないことを認識する）
- ・「私がエサをあげなければ飢え死にってしまう」というのは思いこみの場合もある。ねこは複数のエサ場をなわばりとして生活している。一ヶ所でエサが得られなければ、他の場所に移動する。複数の人がお互いに知らないままエサを与えていることもある

地域ねこ活動？

「地域ねこ活動」は、「住みよい環境を作るための活動」として、地域の皆さんに理解してもらえるような配慮と対策を基本にして進めるのがポイントです。

参考資料：住宅密集地における犬猫の適正飼養ガイドライン（環境省）

（環境省のホームページ（<http://www.env.go.jp/nature/dobutu/aigo/index.html>）からダウンロードできます）